

「線状降水帯」と「台風」がもたらす影響と備え

～ 気象庁 佐賀地方气象台 平山 防災管理官 を講師に招いて防災意識の向上 ～

7月29日、佐賀森林管理署会議室において本署及び各森林事務所職員出席のもと、佐賀地方气象台の平山防災管理官を招いて、「近年の大雨と台風の特徴及び新たな防災気象情報」について講義をいただき防災について学びました。

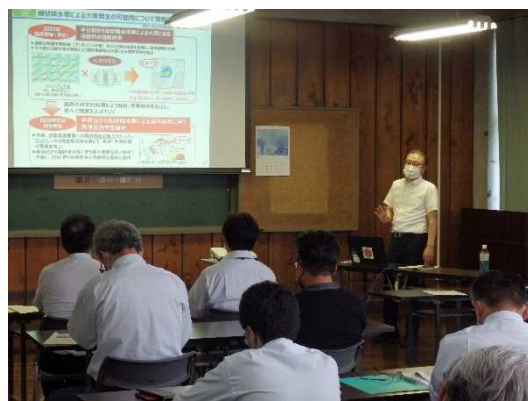
はじめに、小野佐賀森林管理署次長の進行により講師の紹介があり、平山防災管理官から「私は、外へ出かけることが多く、植物観察にも関心があります。広報九州の植物のコーナーを毎月楽しみに見えています。実は、広報九州の愛読者です。」とユーモアを交えて自己紹介がありました。

講義は、①近年の大雨の特徴、②線状降水帯をキーワードにした新たな情報、③近年の台風の特徴、④台風がもたらす災害、⑤段階的に発表する防災気象情報と警戒レベル、⑥九州北部地方の向こう3か月の天気の傾向について、動画による雲の動きを解説していただきました。中でも、近年大きな被害をもたらしている線状降水帯については、次々と発生した積乱雲により、線状の降水域が数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することによって大雨をもたらすもので、災害の危険性が高くなる、そのメカニズムについて説明がありました。また、台風については、強風域の大きさ、進路を示す予報円と暴風警戒域などについて説明がありました。

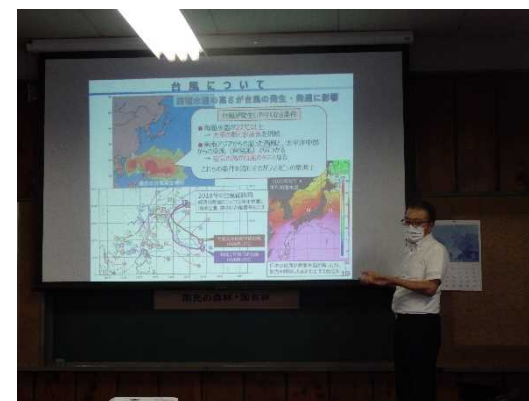
おわりに、小野次長から「近年の気象災害の広域化、1時間80mmを超える大雨の頻度が高くなっている状況等、貴重な講義をいただき感謝の意を伝え、これから台風シーズンでもあり防災意識の向上に役立てて参りたい。」と挨拶を行い、本日の安全会議を終了しました。



安全会議の様子(佐賀森林管理署会議室)



講師 佐賀地方气象台 平山 防災管理官



講師 佐賀地方气象台 平山 防災管理官